



### テーマ【自然物と光（0.1歳児）】

#### <設定した理由・背景>

自然豊かな周辺環境を活かし、戸外活動を行う中で、光や自然物に興味を示していたことから、季節ごとの自然物に触れながら、触り心地や匂いなどについてや光による見え方の違いについて、子どもたちの興味関心をさらに深めるため。

#### <用意した環境設定>

近くの公園に行き、子どもたちが興味のある自然物を探した。光を通してどう見えるのか観察するために、鏡やアクリルケースに入れた水、ライトテーブルを用意した。

#### <購入物品>

鏡、アクリル素材の円柱型の入れ物、フォトスタンド、カラーセロファン

### 活動のあゆみ

<4月～6月>

花や自然物を収集し、観察した。光の当たり方による見え方の変化を探究した。

<10月～12月>

落ち葉やどんぐりなど秋冬の自然物にたくさん触れる機会を持ち、自然物の違いを探究した。光にも触れ、見え方の違いなどについて探究した。

### ※探究活動の実績※

#### 【①どんな問いかけから始めましたか？】

園外活動時に保育者が積極的に「何のお花かな?」「光に当たってキラキラしてみえるね」等声を掛け、自然物の色や形、大きさ匂いなどをじっくりと見て観察し、自然物について探究した。

#### 【②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ】

園外保育で収集したものを持ち帰り、ライトテーブルに乗せたり、水の中に浮かべてみて、いつも見ている自然物の見え方がどのように変化するかをじっくり観察したり、手で触れたりしながら探究活動を行った。水の中に入れた時の角度によっては大きさが変わったように見えたり、光を加えることによって、自然物の色合いが変わったりする様子を段階を踏んで子どもたちに見せていくと、子どもたちは身を乗り出し、その変化を間近に見て目を輝かせている姿が見られた。「光の色の違いで、色が変わったね」「水に入れたら色が変わったね」等声かけを行った。

#### 【③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話】

桜や春の自然物に触れた。花びらの色合いが光を通して変化していく様子に「きれいだね」「かわいいね」などの会話が広がった。落ち葉を円柱型のアクリルケースに収集し、葉っぱの匂いを感じたり、色や形を観察した。葉っぱを光に当てると、葉脈が見えたり、穴が開いているのを見て、「あおむしが食べたのかな」などの会話が広がった。

#### 【④終わりの時期の姿・まとめ】

終わりの時期を迎える頃には、子どもたち自らが園外にある植物や風の音、鳥の鳴き声に気付き、立ち止まり、探究心を膨らませている姿が見られるようになった。



光の色合いによって花びらの見え方の違いを探究しました。

落ち葉の観察をし、光に当てて葉脈や葉に開いた穴を探究しました。

光遊びも継続して行い、鏡に映る自分を観察したり、懐中電灯を使った活動も行いました。

### まとめ

昨年度から興味を持っていた「光」と自然物を掛け合わせたことによって、身近にある様々な自然物の発見をすることができ、何よりも子どもたち自身が自然物の面白みに気付き、園外保育でも興味を持って自然物に手を伸ばす姿がたくさん見られるようになった。これからも探究活動を継続して行い、更に子どもたちが自然物や光に興味関心を持てるよう取り組みを続けていきたい。



# とうきょう すくわくプログラム

## 2025年度活動報告書

板橋雲母保育園東武練馬



### テーマ【色（2歳児）】

#### <設定した理由・背景>

2歳児クラスの子どもたちは「色」に興味を持っている子が多く、感触遊びに力を入れている自園の活動であるボディペイントで、始めは単色を使っていたが徐々に色と色が混じり合い、違う色に変化することに驚いたり、喜んだりしていた。最終的に茶色や黒に近い色になり、なぜ、このような色に変化したのか不思議そうにしている子が見られた為、「色」について深く掘り下げ、探求していきたいと感じたから。

#### <用意した環境設定>

色の混ざり方や変化を探究するために、マーブリング、クロッピー、クレヨン、絵の具、色鉛筆などの絵画用具、カラーセロファン、折り紙、ライトテーブル、水槽を用意した。

#### <購入物品>

平筆、マーブリングインクセット、カラーサインペン、クロッキー

### 活動のあゆみ

#### <4月～9月>

##### ■色に興味を持つ

カラーセロファンを使った活動

##### ■色の混じり合いに気付く

絵具を使った活動(ボディペインティング)

#### <10月～3月>

##### ■様々な画材に触れる

マーブリング体験、カラーサインペン(にじみ絵)

刷毛を使って絵具制作

### ＊探究活動の実績＊

#### 【①どんな問いかけから始めましたか？】

まずは自分たちの身の回りにある様々な「色」に気付けるよう、身に付けている洋服の色や遊んでいるブロックの色、園外保育では信号の色や草花の色といったように、「あれは何色かな?」「黄色にもオレンジにも見えるね」等の声掛けから始めた。

#### 【②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ】

子どもたちが没頭しやすいよう、自由に触れたり観察したりする時間を作った。普段はオーソドックスな絵筆を使用し、制作活動をしているが、大型のハケを使用し、探究活動を行った時には、いつもと違う描き心地に面白みを感じ夢中になって取り組んでいた。パレットの絵具を混ぜ合わせてみたり、保育者から「他の筆も使ってみるとどうなるかな?」と声を掛けると、ハケを3本持ってどのように描けるか試してみたりする子も見られた。

#### 【③活動中の子どもたちの姿・声、子どもたち同士の関わり・対話】

絵の具などの色が混ざり合い、違う色に変化すると「ぶどうみたいな色になった」「ハロウィンのおばけみたいだ」などとイメージを膨らませていた。また水性のカラーペンを使い、にじみ絵の活動を行った時には、自分たちが描いたものに水がかかると、色や線の模様が変化するように驚き、「もっと水をかけたらどうなるのかな?」と興味深く質問している子も見られた。

#### 【④終わりの時期の姿・まとめ】

探究活動を始めたばかりの頃は、色に対してただ単色でしか興味がなかったものの、後半になると原色とは違う混ざりあった色合いでも「これは〇〇に似てる色だね」「これを混ぜたらどんな色になるのかな」などと新たな色に出会えることをとても楽しみにしていた。



ライトテーブルの上にカラーセロファンを乗せて色の見え方の違いを探究しました。



感触遊びの中にも「色」を取り入れました。  
左:春雨と色  
右:泡と色



ハケを使った活動を行っている様子



水性のサインペンを使って自由に絵を描き、にじみ絵にして色の移り変わりを探究しました。

### まとめ

私たちの身の回りにはたくさん色が溢れているが、生活の中に溶け込んでしまっている為、改めて子どもたちと一緒に様々な景色の中にある「色」を継続的に見つける活動はとても興味深いものがあった。また様々な画材を使って色の発見を探究する活動は、自分たちが発見した色の記憶を重ね合わせながら探究活動を行うことができ、子どもたちの発想力や表現力を間近に感じ取ることができた。色の活動については、次年度も継続して続けていき、新たな色との出会いを発見していきたい。